

# 同窓会誌

教育学部60周年  
記念特集号 61



特集

教育学部が歩んだ60年

島根大学開学60周年記念

ホームカミングデー

年表 — 教育学部60年の歩み —

思い出が綴る60年

N. Oasi

島根大学教育学部同窓会

## 大学祭風俗50年の変貌

【1958年(昭和33年)の大学祭】

市中パレード



(写真はS34年卒、伊藤英一氏の提供による)

昭和33年は鍋底景気と呼ばれた不景気の時代。「二宮尊徳」像のもじりか、「角帽」の人形が薪の代わりに「アルバイト」を背負い「学問」を手にしている。男子学生は黒詰め襟の学生服。女子学生の姿はない。(この年長島が巨人軍入団。東京タワー落成。世は貧しかったが上向きだった。)

平成20年、キャンパスはコスプレ、お笑い、バンド演奏と多様な自己表現にあふれていた。(この年アメリカの金融危機が世界を覆う。大学進学率は50%を超えたが就職率は70%を割った。)

【2008年(平成20年)の大学祭】

にぎわう模擬店



市中パレード(2000年)



ちなみに2009年の大学祭は新型インフルエンザが流行のため開催直前に中止となった。

# 目次



「教育学部60周年を迎えて」—学部長／同窓会長 対談— …… (2)

## 教育学部最前線

教育学部の新たな挑戦

環境寺子屋による理科好き教師の育成プロジェクト

……………松本 一郎 (6)

教育学部60周年

記念特集

島根大学教育学部が歩んだ60年 …… (14)

◇島根大学開学60周年記念ホームカミングデー …… (15)

◇年表 —教育学部60年の歩み— …… (18)

◇思い出が綴る60年 …… (20)

## 教職回顧

思い出すまに ……森山 善美 (30)

授業雑感 ……畑 克明 (31)

支部からの声 …… (32)

専攻だより —研究室はいま— …… (43)

平成20年度島根大学教育学部卒業論文題目一覧 …… (72)

平成20年度島根大学大学院教育学研究科修士論文題目一覧 …… (78)

## 近況報告

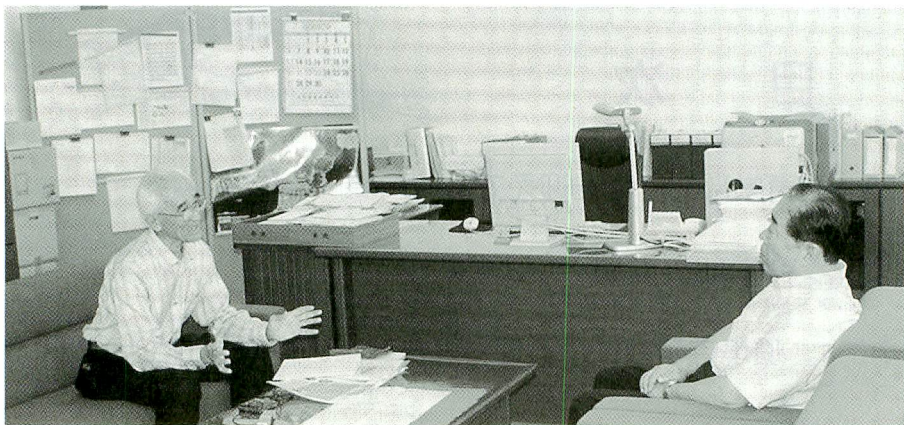
本部だより …… (58) 有志会・同期生会だより …… (60)

クリックしてね！—島根大学教育学部同窓会ホームページご案内— …… (5)

同窓会規約の一部が改正されました …… (81)

事務局より …… (5) (84) (85) (86) (87) (88)

受贈図書紹介 …… (77) (80) 表紙に寄せて・編集後記 …… (89)



島根大学教育学部長室にて（高岡信也教育学部長＝右）

# 教育学部六十周年を迎えて

— 学部長／同窓会長 対談 —

平成二十一年は島根大学開学六十周年にあたります。歴史を振り返りながら学部と同窓会との関わりのある方や教育という営みに対する認識などをめぐって高岡信也教育学部長と田中肇一教育学部同窓会長とに対談を行いました。

**田中** 開学六十周年となりますと初期の卒業生はすでに退職して多様な人生のステージに入っていますし、その子、孫の世代がこの学部に入學し、卒業して活躍している場合もあり、学部と同窓会とのサイクルは強い絆をなしてきていると思います。

## 時代の要請に応えてきた教育学部

**高岡** 教育学部は明治八年開校の教員伝習校以来の伝統を受け継いで、一貫して地域の教員養成を担ってきたわけですが、歴史を振り返ると幾つかの節目があったと思います。

戦前の師範学校から戦後の教育学部へという大転換はあくとしても、近年では、昭和六十三年にいわゆるゼロ免課程ができました。学校教員に加えて生涯学習の指導者養成という、新しい時代の要請に応えようとしたもので、教育学部の幅を拡げた時代だったと思います。

平成十六年には、島根だけでなく鳥取をも含んだ山陰地域全体の教員養成に特化した学部として新しい舞台に立つことになりました。

そういった流れの中で同窓会のみなさんには教員の後継者を育てることに目

配りをし、協力してもらっているわけで、学部教育に対して重要な役割を果たして来られたと思っています。

**田中** 卒業生が学んだ母校はそれぞれの時代の要請に応じてニュアンスを変えながら発展してきているのですね。同窓会の構成員たちが自分の経験した時代の母校のイメージだけにとらわれないためにも学部からの情報発信をこれまで以上にお願いします。

## 生涯学習の時代 同窓会に期待するもの



高岡教育学部部長

**高岡** 今は、免許を取得して就職したからそれで生涯を全うできる時代ではなくなりました。絶えずやる自己研修、職業上の生涯学習が求められる時代ですので、現職研修というこれからはますます重要視されるであろう機能にも同窓会が大きな役割を果たして欲しい。経験豊富な同窓の先生方に期待しています。最近始まった教員や特定分野の実践家のお力も借りる場面が出て来ます。

## 教育学部卒業生の魅力と適性

**田中** 「教員養成に特化する」という場合、大学教育が本来持つている、開放性と言いますか、幅の広さとう調和するのやや見えにくいところがあります。現に教育学部の卒業生は

教職以外の分野にもたくさん進出しています。教育学部に学んだからこそ生かしている人間的な魅力や職業的な適性があるのではないのでしょうか。

**高岡** 親が子どもを育て、その子どもが親になって子どもを育てるというサイクルの中で、教育は、それがなければ人類という種がなくなってしまうという根源的な営みとして位置づけられるわけですが、そのもとも特化された形が学校という組織だということができます。教職以外の仕事に就いた人も、この、人間の根源について学んだ知見を糧に生涯を送られるわけですね。実はそのことが学校の教師にも今求められています。

## 教師に今何が求められているか

**高岡** 教科指導とか学校の中だけに教員の仕事は限定されているわけではなくて、子ども理解、地域社会とのつながりや貢献、保護者の思いの受けとめなどを含んだ幅広い力が必要とされています。今、学部で取り組んでいる「1000時間体験学修」は社会性の涵養を大学教育に持ち込んだ点で他大学からも注目されていますし、企業の面接などでも高く評価されています。

**田中** 高岡先生はこの前の同窓会役員会で、母校へ良い学生を送り込んで欲しいと希望を述べておられました。同窓会の構成員の多くは教員で、高等学校までの子どもたちの教育に関わっているわけですが、最近の入学学生に関してはどういうご感想をお持ちでしょうか。

## 若者のモトリウムと学力の問題

**高岡** モトリウムという言葉がありますね。若い人たちの中に自己決定を遅らせる傾向は確かにあります。教員を目指す人を受け入れて教員に育てて送り出す、これはもつともシンプルな場合ですが、むしろそういう人に本当にそれでいいのかと問いかける、教職の意義や面白さを伝えてそこから彼らの目標設定を引き出す、そこに大学の役割があるだろうと考えています。

**田中** 早い段階でいびつな教師イメージを抱いて入学して来た学生にはむしろその修正を迫る場でもありませんか。

**高岡** それと、これは全国的な傾向として指摘されていることです。が、学力低下の問題がありますね。入り口と出口。学力を高める努力は怠ってならんと思いますし、教職に採用されていく卒業生の数をもっと増やさなければなりません。

**田中** 基礎学力については小学校から高校までの教育にも責任があるでしょうし、「学力」の定義にもよりますが、子どもの問題であるとともに、親の問題でもあるかも知れません。働き方や家庭のあり方、価値観など社会全体のあり方によって変わっているような気がします。

## 学部教育へ 同窓生からの「照り返し」を

**高岡** この前は同窓会のご協力で教員採用試験の模擬面接を行っていたわけですが、大学が教職教育を鮮明に発信していくにあたって、多様な体験を持って職業生活を送っておられる卒業生の方からの「照り返し」に期待するところが

大きいわけですね。

**田中** 「照り返し」とおっしゃっていただと嬉しいですね。同窓会では去年からホームカミングデーの機会をとらえて卒業生と学生とが語り合う場を設けるようにしました。去年のテーマは「今求められている教師力―教育学部卒業生と語る―」、今年のテーマは「育ちを支えるネットワーク」でした。学生の皆さんにも大きな刺激を与えたと思いますが、参加した卒業生にとっても日々の実践を振り返るいい機会となりました。

## 大学における同窓会の意義

**田中** ところで、アメリカの大学でも同窓会の存在感は大きいと聞いていますが、高岡先生のお詳しいドイツではどうですか。

**高岡** 地縁、血縁から決別したと言われる近代でも、どの国でも同窓会という組織が大きな存在意義を持っていることに変わりはありませんね。

**田中** 利益誘導集団になつては困るわけですが、人間的な絆を基本にした、おおらかで緩やかな組織としての同窓会にはそれとしての社会貢献も期待されていると思いますので、今後いろいろな企画を通して、存在意義の評価されるような同窓会にしていきたいと思っています。

先生、今日はお忙しいところをどうもありがとうございます。

(平成二十二年九月一日)